

ロータリー哲学

アーサー・フレデリック・シェルドン

第12回国際ロータリークラブ連合会
全国大会議事録より

田中 毅 訳



Arthur Frederick Sheldon

ロータリー哲学

目次

ロータリー哲学	2
哲学とは何ですか	8
奉仕哲学とは何ですか	10
「奉仕哲学とは、適切な目的に 対して推論を適用する措置です」	16
哲学とは、原因による結果の科学です	20
利益または報酬	—
それ含まれる物質的および精神的要素	21
よい奉仕の自然的要素	23
自分自身、提供者、マンパワーの要素	26
原因・根源	33
何ですか	38
なぜですか	38
何時ですか	40
どんな方法ですか	41
結論	45
ナイアガラ	46

ロータリー哲学

アーサー・フレデリック・シェルドン

委員長、ご婦人方、ロータリアン諸君。

私は人生街道を歩いていく中で幾たびかの榮譽を受けましたが、今日のロータリーの力強い活動が、創立当初に、私のお気に入りの一 お気に入りと言っても差し支えないと思うのですが 一 精神的な作品が、金言のごときモットーとして採択されたという事実に起因していることに勝る榮譽はありません。その喜びが一層高まったのは、私のテーマが発表されて以来、私が受けた数多くの暖かい反応によって、私のモットーがあなた方に認められたという喜びが確実になったことです。

プログラムからも判る通り私のテーマは「ロータリー哲学」です。私のスピーチを文書にしたためて出版委員会に提出しましたので、私のスピーチは既に終わったも同然です。

私はスピーチ原稿を船の中で書き上げ、「フォーラム」の編集者にそれを読むように依頼すると、彼はそのことを聞かぬや否や「シェルドンさん。あなたはなぜ、スピーチ原稿を書かずに本を書いたのですか?」と言いました。皆さま方はすでにスピーチが済んだことを知って、さぞかし嬉しいことだと思います。（笑い）。

後ほど文書としてお読みいただくことが可能だとは思いますが、ロータリーの根幹をなす奉仕哲学の基礎を作るために全力を傾注した「ロータリー哲学」について、その一部始終をお話したいと思います。この種類のプログラムにおいて、他人の権利を侵害しないで私たちがベストを尽くすためには、基礎的な幾つかの必要があります。言い換えれば、最も重要な幾つかの点に触れる必要があります。

ロータリアン・シェルドンは上記のような前置きの後、原稿無し

で、前置きで触れた演題の趣旨に沿って、45 分間にわたって国際大会の注目を一身に浴びました。彼の演説は拍手のために途中何度も中断し、演説が終わると感極まった歓声があがり、そのメッセージが深い感銘を与えたことは疑いの余地はありません。聴衆は全員が総立ちになり、シェルドンが立ち上がって熱烈な歓迎に応えるまで、歓声は鳴り止みませんでした。

この論文は、全文が正式記録として議事録に挿入されています。

ロータリー哲学

カリフォルニア州の北部のシッソンの近くに三つの泉が湧き出ています。シャスタ山に降る万年雪に源を発しているので、泉が枯れることはありません。三つの泉が合流して、一本の小川になり、その道すがら、他の泉や小川が合流してサクラメント川になります。それぞれの小川や泉の力を加えた力強い大河になって、最後は海に達します。

源となっている小さな三つの泉を見た旅人は、小さな出発が大きな可能性につながるという教訓を学びます。

大河はこの教訓の主人公ではなく、小さな泉の出発から力強い活動が生まれるのです。

* * * * *

数年前、私達の尊敬すべき創立者である名誉会長は、昼食を取るために、シカゴで3人の友人と会いました。彼らは何回も会合を重ねながら、そのグループを大きくしました。彼らは、ウィリアム・モリスの「親睦は生であり、親睦の欠如は死である」という言葉を実感しました。

昼食を取りながら友愛の喜びを味わい、「人はパンのみによって生きるものに非ず」という言葉の真意を悟ったのです。彼らは人類愛の素晴らしさを、現実のものとして感じました。彼らは例会を永久的なものとして決めて、最初のロータリー・クラブを作ったのです。その活動が始まった当初は、それが建設的な影響力を持った流れの出発点となり、結果的には世界中に広がって、人類の王国の遥かかなたにまで達することを夢見ることなど、ほとんど考えていませんでした。しかし、ロータリーはそれを成し遂げたのです。今日ロータリーは全世界における恒久的な善意という考え方を、人間の思考の広大な海に培いました。その影響力は、直接的にも間接的にも極めて大きいのです。

シカゴにおける例会という泉から流れだした川は、建設的な考え

方という湾岸の潮流となって海を渡り、兄弟愛という絆で大陸を結びつけたのです。

組織が誕生してから僅か 12 年しか経っていない今日、アメリカから参加した 2000 人以上の人々と共に、歴史的都市エジンバラで国際大会を開催しているのです。

エジンバラとイギリスに祝福を。国王と共和国大統領のご健勝を。ロータリーがアングロサクソンの民族を融和させ、すべての国家が奉仕の精神に基づいた目的と行動でより緊密に結ばれますように。

現在力強い活動をしている開拓者が、仮に、初期の時代にこの国際大会を予言したとしたら、実現できない夢を夢想する夢追い人だと思われたことでしょう。このようなことは国際大会の歴史上前代未聞のことです。海を越えて国際大会に代議員を運ぶために、2 隻の汽船をチャーターしたことは世界で初めてのことであり、とてつもなく大きな事業が成功裏に実施されたのです。

これは、歴史が浅いにも関わらず、ロータリーが偉大な力を持っていることを証明する最大の評価です。ロータリーは人を作り、事業を作り、地域社会を作り、さらに世界すらも作る能力を持っている、驚くべき予言なのです。

ポールや同僚の開拓者たちは、ロータリーを始めた当時認識していたよりも、もっと素晴らしいものを作ったのです。人間は、ダマスカスに向かって旅立った、もうひとりの偉大なる法律家ポールが見た偉大なる光を見たのかも知れません。ポールが健やかに繁栄し、更に光り輝き、多くの使徒を送り続けることをお祈りします。

* * * * *

さて、今ここで、ロータリー哲学というテーマで講演することは、私の義務であり、特権でもあります。

皆さま方から、講演をするようにご招待されたこと、それが特にこの機会だったこと、さらに、このテーマが与えられたことは、極めて名誉なことです。この名誉を与えられたことを心から感謝しま

すが、この名誉を受け入れることに、いささかためらっています。まず、ロータリーの人生観をすべての人が満足するように述べることは、かなり難しいことです。人間関係学が発展段階にある現状ではなおさらのことです。

人間関係に関する全般的な自然の法則が、一般的に理解されるまでは、奉仕哲学に関する人間の意見も、ロータリー哲学に関する最終的な分析も意見が分れるところです。実態に即して、もっと謙虚に、この論文をロータリー哲学ではなく「ロータリアンの哲学」と題した方が、適切だったかも知れません。そうすれば皆は、もっと自由に考えることができ、徐々に発展していく過程にあるロータリー哲学に対する示唆に富んだ論文になったのかもしれない。しかし、その難しさは、ロータリーに対する奉仕を証明したいという私の希望を引き受けたことに対して、ためらいを感じている唯一の要因ではありません。

この根本的な重要なテーマを論ずるに当たって、「哲学」という言葉を若干疑いの目を持って見ている人がたくさんいるという事実全く気づいていないわけではありません。

「科学」という言葉を人間関係や、特に商工業に適用しようとすると、多くの人たちが眉をしかめ、肩をすくめた時代は、そんなに昔ではありません。そして、「哲学」という言葉は、「科学」という言葉よりも更に「知的な」言葉でした。製造や配布に関連して、「科学」という言葉を使うことに対する先入観は、ほぼなくなり、今日の経験に富んだ実業家は、「科学」という言葉は進歩をもたらす使者、質や量や経済の母として、一般的に歓迎しています。しかし、科学の信奉者を含めて、哲学を理論的な抽象概念と結び付け、一般的に敬遠する傾向が強いのです。

ロータリーの会員は事業と職業人の階層から大部分が選ばれており、もしロータリーがすべての人たちから受け入れられる明確な哲学を持つ必要があれば、それは実践可能なものでなければなりません。実践哲学は、毎日の生活、家庭で、職場で、市民として、政治関係の中で、ロータリアンとしてうまく適用できるものでなければなりません。それは実践可能で、有益な哲学でなければなりません。

せん。この事実は、ロータリー哲学を発展させるという私たちの義務と、大きな責任の両者を結びつけるものです。これは私達が現在生きている証として、特に重要なことなのです。

大きな出来事が起こっています。人類のいろいろな要素を含んだ考え方は、変遷のるつぼの中にあります。

現在生きている百万人もの人たち、まだ生まれてこない数百万人の人たちの幸福や苦難を大きく運命づける基本的な方針は、未だ構築の過程にあります。

第三のオルガヌムという表題の本の中で、作者は、アリストテレスを超えたアリストテレス流に、ベーコンを超えたベーコン流に、次のように述べています。

「どの瞬間においても、世界の未来はあらかじめ運命づけられています、それは条件付きで運命づけられるのです。新しい事実が起こらない限り、その瞬間に起こった出来事の進み具合によって、全く別の未来になります。新しい事実は、意識および意識から生じる意思からのみ生じます。」

世間がこの事実を認めるか否かにかかわらず、ロータリーの原点とも言える奉仕の原則は、自然界における事実を表すものです。事実、それは、調和と利益をもたらす人間関係をコントロールし管理する法則を示しているのです。

もし私たちが、この国際大会に集った諸会社や国家の運命を決定する人たちに、私たちのメッセージを伝えることに成功すれば、この大会が歴史的で、建設的な影響力が大きいものになることは言うまでもありません。

「奉仕の原則」というロータリーが根底としてきた基本的事実は、新たなものではありません。

事実、この原則は、他のすべての自然の法則や原則と同じように、いつも存在していました。しかし、人間性の法則として、この事実を認識することは、比較的新しいのです。

世界の実業家たちが、その法則を認識し適用すれば、人類の歴史

上、今「与えられた瞬間」に為すべきことの方針を決める上で、極めて大きな可能性を秘めることになるのです。

一たび、「奉仕の原則」が人類の意識下に入り、その結果生じる「意思」が個人や会社や国家の方針を決定すれば、文明の保持と進歩は確実です。

「哲学」という言葉の正しい意味と重要性を十分に理解していない人たちにとって、また、「奉仕哲学」が普遍的な自然の法則としての「奉仕の原則」を理解することから発展したことを十分に理解していない人たちにとって、上の説明は、途方もない考え方かも知れません。

事実を保守的に説明するよりも、むしろ、愛国的な情緒主義性のせいにされるかも知れません。しかし、何れにせよ、歴史上のこの重大な時に、この説明の途方のなさや情緒主義に深入りする暇はありません。

以下のことについて、真剣に考えてみましょう。

1. 哲学とは何ですか
2. 奉仕哲学とは何ですか
3. どんな効果が、奉仕哲学の普遍的な理解と実践から自然に流れるのですか
4. 私たちはなぜ奉仕哲学を確信して期待するのですか
5. 何時のことですか
6. 奉仕哲学の普遍的な理解と実践をもたらすために、私たちはロータリアンとして、どのようにしたらいいのですか。

哲学とは何ですか

倫理学の分野における彼の貢献をよく知っており、すべての人たちから尊敬されているウィリアム・ハミルトン卿は、哲学についていくつかの定義をしています。その中の幾つかを紹介すると、次の通りです。

1. 「哲学とは、基本原則から推測される事柄に関する科学です。」
2. 「哲学とは、適切な目的に対して推論を適用することです。」
3. 「哲学とは、原因による結果の科学です」

ハミルトンと、かの著名なフィヒテは共に、「哲学は科学の中の一分野です」と語っています。すなわち、その他すべての科学の発見から得られた結論を系統的に組立てて、その結果、少なくとも一般の科学によって明らかになった真実を適用する方法を解明するのが哲学の本領なのです。

従って、ウィリアム・ハミルトン卿のような権威者によれば、哲学は、それ自身が科学、実際は科学の中の一分野であり、前にも述べたように、現在殆どの実業家は、科学(普遍的事実の系統化)として喜んで請け入れ、製造の分野においては産業の、配布の分野においては商業を含む、人間活動のすべての分野で活用しているのです。

「定義 1.」から「推測される科学」、「適切な目的に対して推論を適用する対処」、「原因による結果の科学」このような思考体系は喜んで歓迎され、熱狂的に実行に移される建設的な力であることは確かです。そして、ロータリー哲学はハミルトンの基準にすべて立脚しているのです。

ウィリアム卿の言葉を熟慮すれば、私たちは、この言葉を使うことを躊躇する理由がまったくないことが、よく判ります。

もし私たちが人間関係を本来の水準まで高めるために役立つとするなら、世界中の実業家や専門職種の人たちが、普遍的な「基本原則」によって親密さを増し「適切な目的に対して推論」を適用し、「原因と結果」の普遍的な法則を研究する絶好の機会です。

そのことを知っているか否かにかかわらず、私たちは、運ではなくて、法則の分野で生活をしているのですから、これらの法律を理解し適用するのは当然のことです。

私たちが使う「哲学」という言葉の真意は、これで十分でしょう。

奉仕哲学とは何ですか

ロータリー哲学は奉仕哲学です。当然のことながら、「超我の奉仕―最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」というモットーの源泉から流れでています。

「ロータリー哲学は奉仕哲学です」と述べるのは、簡単なことです。しかし、奉仕とは何でしょうか。

精密な分析をしなければ、「奉仕」という概念は抽象的で漠然としたものに過ぎません。後ほど、この言葉の精密な分析をするつもりです。

ここでは既に簡単に述べたように、ロータリーが根底としている「奉仕の原則」は自然の法則、言い換えれば、調和が取れて有益な人間関係の基本的法則であるという事実を指摘しておきたいと思えます。

私たちはこの法則を「原則」と呼びます。しかし、「原則」とは何でしょうか。

「原則」とは基本的な法則です。しかし、すべての原則は法則ですが、すべての法則は原則ではありません。

自然の法則を原則の基準にまで高めるためには、基本的または支配的な法則、創造的な法則、同じような一般的な性格を持った他の自然の法則を包含した自然の法則でなければなりません。

原則とは、自然の法則であり、自然の法則とそれに関連するその他の自然の法則は、海に注ぐ川の流れのように、最終的には出発点から到達点に流れていくのです。

そして「奉仕」の概念は人間性の法則であり、人間関係の他の自然の法則とまさしく同じ関係なのです。従って、「奉仕の原則」と呼ぶのが適切なのです。

自然は、無機物界、植物界、動物界、人間界の四つで表します。科学は、長い間、これらの三つの低いレベルの世界における自然の法則について、数多くの仕組みをうまく解明して、人間は徐々に支配力を強めてきました。

人間はこれらの世界における自然の法則の理解と適用を深めて、支配力を得つつあるのです。

例えば、人間はずっと重力の法則や引力の原則を認めてきました。アインシュタインはその説明の正確さに疑問を唱えるかも知れませんが、その普遍的な作用をよく理解しているので、彼が自殺したいと思わない限り、ロンドン塔のてっぺんから飛び降りるべきではないことを、よく知っています。

人間は磁気の法則や数学の法則や力学の法則や化学の法則をよく知っています。人間はこれらの法則を利用して、その作用によって結果が得られることが期待できれば、これらの法則と調和を保ちながら働くべきだという事実を認めなければならないのです。

人間にも、人間界の自然の法則があるという事実を認め、それを普遍的に適用する機は熟しているのです。

「奉仕の原則」が人間関係の自然の法則であることは、まさしく、物体に対する、重力の法則や引力の原則と同様なのです。

以下の事実を指摘します。

1. 空気よりも重たい静止物体は、それを支えているものを取り除けば、地面に向かって落ちてくるのは当然のことです。
2. どんな業種でも、事業は、その生産物を通じて世界に最もよく奉仕している業種の会社に魅きつけられるのは当然のことです。
3. 概して、従業員に最善の奉仕をしている業種の会社に、良質の従業員が魅せられて、魅きつけられるのは当然のことです。
4. 会社に対して最善の奉仕をした、組織に属する個人に魅力を与えるために、昇給や希望する昇進を与えるのは、当然のことです。

このように、私たちは、奉仕の自然の法則には、いささかの病的な感情も入っていないことが判るのです。それが、健全な経済に関する基本的な法則です。

世界中の人たちは、人間界における「適者生存」の法則は、肉体

的にも精神的にも最も強い者が生き残る法則であり、肉体的、精神的な力は利己的に行使すべきであるという誤った信念の下で、長い間働き続けてきました。

ここから、肉体的、精神的な力が正義であるという誤った主義主張が起こったのです。

「自己」「私」「個人」は本来、自己保存の願望を持っています。自己保存という自然な願望は、人間性の確固たる原則です。私たちが犯した過ちは、自己保存しようという自然で、唯一正しく、確実な手段を理解できなかったことです。

適者生存の法則は、肉体的、精神的な力を利己的に行使して生存する法則ではありません。それは最も奉仕する者が生き残る法則であり、精神力や正義感が、その力を作る自然的要素の一つなのです。

最も良く奉仕をした者が、最も良く利益を得、最も良く生き残れるのです。自己を保存する方法は、他人に対して奉仕をすることです。他人に対する奉仕は、自分の利益を確立することです。利己主義は自滅への道です。他人に対する奉仕は、自己啓発と自分の利益を守る道です。

ロータリー哲学は、その考え方を死守することです。商工業関係における、奉仕の法則の適用と発展の歴史は、非常に面白いものです。ここで、その傾向を簡潔に要約してみましょう。

極く初期の雇用主と従業員との間の雇用関係では、世界中の雇用主は、従業員から雇用主への最善の奉仕を最大限望み、期待し、要求してきました。商工業の初期の時代では、取引は物物交換であり、雇用主は従業員が顧客に奉仕することを望んだり期待していませんでした。従業員は、雇用主が顧客を増やすことを手助けすることが期待されました。

言い換えればほんの数年前に、世界中の雇用主は、雇用主と従業員の両方を含む会社全体からの、顧客に対する奉仕の素晴らしさこそが、顧客からの継続的な利益を保障する唯一の可能性を秘めた方法であるという簡単な理由から、顧客に対する良い奉仕が健全な経済学であるという事実気がついたのでした。これが、製品の購入者との取引関係の永続性を保障する唯一の方法なのです。この事実が

はっきり理解されるや否や、雇用主は従業員から雇用主への奉仕の一要素として、従業員から顧客に対する奉仕を要求し始めたのです。

今や私たちは、雇用主たちが、ごく普通に、奉仕の法則が重力の法則と同じように普遍的な法則であるという事実気付、雇用主から従業員へだけではなく、従業員から雇用主に適用する時代に入ったのです。雇用主たちは、雇用主から従業員に対する奉仕だけではなく、顧客に対する奉仕も健全な経営であることに気付いています。

すべての雇用主がこの事実に気付かなければなりませんし、すべての従業員も、雇用主に対して奉仕すべきであることに気付かなければなりません。炎を弱めて、より多くの熱を期待することは、理論的に不可能です。それは自然の法則に反することであって、不可能なことです。

この簡単な、しかし、最もすばらしい事実の普遍的な適用は、商工業関係の財政的均衡と経済収支に関する傾向として、直ちに開始されるに違いありません。しかし、この法則の適用は、自然で普遍的なものとして認識されなければなりません。雇用主だけがこの法則の適用を強制することはできないし、従業員も同様です。双方が、お互いの関係に、それを適用しなければなりません。

ロータリー哲学は、財産権と政府の権利を断固として支持します。そして、世界中の雇用主のあらゆる権利、恩恵、特典を支持すると同様に、世界中の従業員のあらゆる権利を支持します。

この件に関しては、いかなる種類の「権利」であっても、ロータリー哲学は、ゆるぎなき基本的な事実に基づいているのです。世界中のすべての個人、すべての会社、すべての国の生活は、総勘定元帳のようなものだという事実を指摘したいと思います。貸方には権利、恩恵、特典があります。

借方には、義務、約束、責任があります。

真のロータリアンならば、個人や会社や国のすべての権利や恩恵や特典は、単なる結果か、まぼろしに過ぎないものであり、これらの権利が創造された自然の方法である、自然の義務や約束や責任を

欠けば、その実在性はまったくないと、主張するのです。

世界中の雇用主や資産家が、他の人たちの財産所有権と雇用に付随する彼らの完全な自然の義務、約束、責任のすべてを実現させるなら、自分たちの完全な自然の権利、恩恵、特典の取得と保全について心配する必要がなくなるのです。

まったく同じような推論で、世界中の従業員が、彼らを雇用している人たちに対する完全な自然の義務、約束、責任のすべてを実現させるなら、従業員としての完全な自然の権利、恩恵、特典の取得と保全について心配する必要がなくなるのです。

国家間相互の関係についても、同じことが言えます。なぜ、大英帝国が植民地の主権者なのでしょう。それは、大英帝国が植民地の主権的奉仕者だからです。大英帝国の国策は、ウエールズ皇太子のコートの腕に描かれている「私は奉仕する」というモットーに由来しています。その源泉から流れる水は純粹です。奉仕の国策は永續性のある強い力を持っています。大英帝国は日の沈むことのない植民地全体を統治しており、それは軍事力の鉄の絆ではなく、植民地に奉仕するという絹のような柔軟な規約なのです。

これと同じように、国家間には、成文化されていない自然の法則があります。国が他の国に奉仕するのに応えて、他の国がその国に奉仕するのです。私たちが、他の国に与えたものを、受取るのです。世界大戦はそれを立証しました。私たちはその教訓をよく学び、そこから何かを得なければなりません。

* * * * *

世界の総勘定元帳は、現在、バランスが取れていませんが、これは個人、会社、国家の記帳方法が悪いという、非常に単純な理由からです。

適者生存の法則とは、最も強く最も利己的な者が生き残れる法則であるという間違った信念の下で働いてきたので、何百万もの人たちが、「略奪ゲーム」にうつつを抜かし、「取ることはいいこと」だという考え方の中で、「取ろう」としてきたのですが、とどのつまり、この方法が、あちらこちらで問題を起したのです。

コージブスキー伯爵は人間工学に関する「人間性のすばらしさ」と題する彼の著書の中で、次の通り述べています。

「可能な限り略奪するというこのモットーは、一国だけを特定とされているものではなくて、文明社会全体のモットーであり、人間の特性や人生の潜在的可能性に関する愚かな哲学の必然的結果なのです。私たちはどこで、真の原則を見つければいいのでしょうか。真の哲学とは、どこにあるのでしょうか。文明の歴史を遡ってみれば、すべての学問において正しい学問が除外されて、個人的な意見や理論が私たちの信念を形成し、精神的な成熟過程を特定な色に染め、私たちの運命を支配してきたことが判ります。」

伯爵はさらに、人間の関係の問題に対して自然の法則を認識し適用することで改善できるという、極めて説得力のある方法を示しています。彼の言っていることは、正しいことです。いかなる人間も会社も国家も、人間関係の自然の法則の制定には何の関りもありません。人間はそれを創ることも破ることもできないのです。しかし、自然の法則を破ろうとする個人や会社や国は、いともたやすく自滅できるのです。

歴史の浜辺には、すべての人間関係の最も基本的な法則である、ロータリー哲学が根底としている奉仕の原則に違反して自らを滅ぼした、個人や会社や国家の残骸が散らばっているのです。このようにして、私たちは哲学奉仕がハミルトン卿の「定義 1.」に一致することが判りました。これは明らかに基本に対処する学問です。

* * * * *

「奉仕哲学とは、適切な目的に 対して推論を適用する措置です」

推論の正統性や自然的役割は、最終的に正当な判断をするために、正しい関係を認識し法則と原則（法則の原因）を識別することです。従ってその最終的かつ最も優れた役割は、背後にあることがらに遡って、ものの考え方の原因を見つけることです。奉仕哲学に、この基準を当てはめてみましょう。商工業として知られる人たちの事業や活動に当てはめて、少しばかり真摯にこの問題について考えて見ましょう。商工業のすべての分野が存在する、神聖で自然な理由について、純粋な理由は何なのかを問いかけてみましょう。私はなぜここにいるのですか。私はなぜ事業をしているのですか。私の事業はなぜ存在するのですか。これらの疑問は、すべての実業家が自問自答する非常に実用的な問題です。

さて、奉仕哲学は、「この惑星を生活の場にする限り、すべての人間や、商工業やその他の分野の会社として、あらゆる形で構成された人間の集団が持っている唯一の存在理由は、その人やその会社の有用性であり、奉仕を実践する程度を示すもう一つの名前なのです。」と述べています。

工業と商業は人間活動の二つの最も有用な形態ですが、重要性和必要性においては、第二位にランクされるに過ぎません。

農業が人間にとって最も有用な職業です。もしも、すべての教師や弁護士、さらに、すべての医師や歯科医師やその他の人たちが、今夜死んだとしても、しばらくの間はどうにかかりますが、もしも、すべての農民が突然あの世に行ってしまうと、私たちはたちまち大変な苦境に陥ることでしょう。農民の次に来る、奉仕の悲しい損失は、世界中の生産物の製造と配布に従事している人たちです。彼らは、まさに非常に大きな奉仕をしているのです。そして、ほとんどすべての職業に従事している多くの男女は、彼らの固有の事業の唯一の存在理由は「お金を稼ぐため」だと間違っして信じているのです。これが、彼らが事業に従事している唯一の理由なのです。

私たちが過去に通り過ぎ、今抜け出ようとしている唯物主義の時代において、人間は、自らを単なる紙幣印刷機だと考える傾向がありました。

ロータリー哲学は財産権の敵ではありません。それどころか、財産権のチャンピオンであり筋金入りの擁護者です。ロータリー哲学は、社会が組織化されている今日、金を持つことが正当かつ必要であり、将来もずっと続くことは確かだと言っているのです。

金銭は、価値の万国共通の象徴であり、事実、物質的な富は、人間の奉仕または頭脳や心や手足などの人間の力の集積を表すのです。

私たちは、生存するための三つの基本的な必要条件、衣食住を調達する手段として、金銭を持つ必要があります。私たちは、最近はかなり自由な供給を得ています。ミルクがたくさん手に入るので、クリームがもはやトップの座を占めることができないと、言う人さえいます。

人間がただ生きているだけではなく、本当に生きていくためには、衣食住以上のものがが必要です。本当に生きるために、人間は文化という装いを持つ必要があります。そのためには金銭が必要です。ロータリー哲学は、交換手段としての金銭の必要性を完全に認め、財産権や正当で公正な政府を否定したり、何らかの方法で崩壊させたり破壊しようとする、如何なる哲学とも妥協しないのです。

その一方で、ロータリーは、すべての個人やすべての会社が稼ぎ出す金銭は、原因ではなくて結果であることを、大胆不敵に宣言します。公正に稼ぎ出した金銭は、奉仕の実践の対価として支払われた賃金なのです。

従って、原因に遡って推論すれば、奉仕すなわち有用性が、商工業会社の存在理由であるばかりでなく、あらゆる人間活動の存在理由であることが判るのです。

多分、以下の事例が、この基本的事実を明らかにするのに役立つでしょう。まず最初に、世界中の靴の製造に関するすべてを知っている人全員が、大会に集ったとしましょう。ブーツやシューズやその他すべての種類の靴の製造に関するすべてを知っている、老若男女全員が一堂に会したのです。

次に、靴の製造に使われるすべての機械類が、ここに集められたと考えましょう。

更に、靴の製造技術に関して書かれたあらゆるデータが、この想像の大会が開かれている都市に集められたとしましょう。大会は議事が進行し、一枚の紙がみんなに配られます。その紙には、一つの質問、「なぜ、あなたは靴の事業に携わっているのですか」と書かれています。「なぜ、あなたはその事業に携わっているのですか」

答を言うために、読心術はいらないでしょう。

大多数の人たちは、正直であり、自分の考え方に従って、正直に答えるでしょう。従って、彼らの答えは、「金儲けをするため」に違いありません。

しかし、それは正解ではありません。すなわち、その答えは全く不健全な人生哲学を反映しているのです。また、この回答は、100人中約95人が結局は失敗する根本的な理由を示しているのです。それは、彼らが事業の存在のための本当の原因に対する「推論」を適用することに失敗しているからです。

商工業の適切な目的に対して推論を適用するという立場から見た正解は、「私は奉仕の実践をするために事業をしています」なのです。純粹理性は、事業が存在する唯一の正当な理由は、奉仕であることを、真摯に考えるように彼に語りかけているのです。もしも、この仮想の大会が、今日から10年後に開かれれば、同じ質問に対して多くの正解が得られることでしょう。今から25年後ならば、ほとんどすべての解答が正解になるでしょう。ことによると、すべてが正解になるかも知れません。

そして、私たちの答えは理論上に過ぎないとか、実行不可能だとか、さらには浅薄な考えを、誰か真剣に信じたり言ったりする前に、もう一度、仮想の出来事を活用してみましょう。

この大会の会議中に、地震が起こって、すべての人間の命と、すべての機械と、そこに集ったすべての記録が破壊されたと仮定しましょう。突然、地球上には、靴の製造技術に関する知識を持った人間は、老若男女の区別なくいなくなるのです。機械も全くありませんし、記録も全くありません。

靴の製造技術は、突如として、この人間の世代から失われるのです。この出来事によって、靴の事業に携わっていない私たちが、偉大なる奉仕者を失ったという事実に気付くのに、そんなに時間はかからないでしょう。

当然のことながら、これと同じ事例は、帽子や服や住居や食物や、その他人間のニーズや快適さや贅沢のたるに提供されるすべてのものに当てはまるのです。

純粹知性は、卑しい職業だと考えられている商工業の存在について、本当の理由は、人間社会に奉仕を提供することだと、単刀直入に私たちに語っています。もしも、これが推論の過程として真実ならば、人間の精神的な概念が形成されたという考え方は、明らかに正しいのです。

人間ほどの素晴らしい創造物を作ることのできる全知全能の神が、人間を単なる金儲けの機械、物的価値の蓄積家として設計したとは、到底考えられません。まったくその通りです。私たちの直観、私たちの精神的な鼓舞、私たち人間のすべての素晴らしい力、これらすべては、神が奉仕をするために人間を地球上に遣わしたことを語っています。

この事実が、商工業を利己主義の卑しいランクから引き上げて、ロータリアンが心から「超我の奉仕」を宣言することを可能にし、ロータリアンが「最も奉仕する者、最も報いられる」と高らかに宣言することを可能にしているのです。

私たちの事業が存在する真の理由を意識的に理解することは、私たちの事業に新しい尊厳と、より大きな栄光をもたらすことに繋がります。

この法則の中の法則と調和を保って、意識的に仕事をする人は、仕事を愛する理由を十分理解して、自分の仕事に心血を注ぎ、知識と意識を傾注して、自分の仕事を愛することができるのです。

哲学とは、原因による結果の科学です

さて、私たちには、ロータリーのモットーにある(1)「奉仕」、(2)「利己」、(3)「利益」という三つの重要な概念の本質について調査するの仕事を残されています。

実用的にするためには、私たちは不確実なものを取り除かなければなりませんし、正確に分析しなければ、これらの言葉の一つ一つは、曖昧で漠然としたものに過ぎません。奉仕哲学やその他の哲学が普遍的な承認を正しく受ける前に、私たちが今、考えている原因と結果の法則を、最も厳格なものとすると共に、徹底的な分析と数学のような正確さを持った基準にしなければなりません。

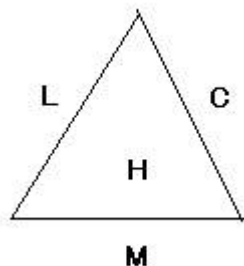
科学の光が人間関係の問題に投げかけられ、適用されたときに、初めて、文明は等比級数的に進歩し、神の意図する目標である完成に向かって進むでしょう。従って、それが行われるまでは、そのような進歩はないのです。奉仕哲学が、「原因と結果の科学」として、究極に上り詰め、奉仕の原則という源泉から流れ出る時、ウィリアム・ハミルトン卿による哲学のもう一つの定義と一致する、次の定義をさらに引用しても、さほど大きな非難を受けることはないでしょう。

「哲学は、神と人間と両者を含んだ原因の科学です」

奉仕哲学は現実に「原因と結果の科学」であり、今示された「哲学」の定義に合致するという事実を明らかにすると共に、モットーの三つの基礎概念である自然的要素をはっきりと定義づけるために、私たちは、「人生を全体的に見れば、四つの正三角形に象徴化され、最後の三つは同次元のものです。」というの説明を前もってしておかなければなりません。

これらの四つの図形を、G1、G2、G3、G4 に示します。これらの四つの三角形を考察するに当たって、最初に G4 について考えてみたいと思います。

利益または報酬 — それ含まれる物質的および精神的要素



左記の三角形（G4）は、「得ること」または受取ることの概念、すなわち取得の一般概念を表しています。中心にある文字「H」は、意識的にかつ科学的に努力するか、またはその方法を知らないで、無意識に探りあてようとするかにかかわらず、すべての人間が心底求めている「幸福」という概念を表しています。「L」「C」

「M」の文字は、「幸福」または「満足」という合成物を得るために必要な要素を表しています。

三角形の左にある文字「L」は「仲間からの愛情」を表しています。もしこの言葉が、感傷的すぎて、科学的ではないと考える人がいれば、この要素を「他人からの尊敬」と読んでもかまいません。嫌われたり軽蔑されたりする仲間を持つ人は、決して幸福ではありません。

三角形の右にある文字「C」は「良心」の要素を表しています。もし「自尊心」という言葉が好きならば、そう読んでもかまいません。この「良心」は、仲間から愛情や尊敬と同様に、幸福または満足に必要な本質的要素です。

三角形の底辺にある文字「M」は、賢明に使えば、それがもたらしてくれる物質的な富や必需品や楽しみや贅沢等の象徴である「お金」を表しています。

他の人々からの愛情や尊敬、曇りのない良心、仲間との毎日の取引の結果として得られる物質的な富は、少なくとも程よい幸福と言うべきでしょう。もちろん、健康であることも含まれますが、後で述べるように、これは前提条件に過ぎません。健康は、奉仕の源となるマン・パワーを引き出す要素の一つなので、ここでは、報酬または利益だけの要素を考えたいと思います。

奉仕哲学における利益という言葉には、お金とお金もたらす恩恵が含まれているので、それよりもさらに多くのものが含まれていることがわかります。物質的な富だけでなく「仲間からの愛情」と

「良心」といった、精神的な価値をも含んでいるのです。

今、将に、私達は、悪い結果を広範囲に及ぼしている間違っただけの考え方と対峙しています。大部分の人たちが考えていることは、物質的な富や多くのお金を「儲けること」に通じる一本の道であり、精神的な価値を得るための道は、まったく別な分れ道なのです。

しかし、これは真実ではありません。実際に、「道」は、三つの何れにも通じていません。「道」は、広くて、比較的通り易い道です。

しかしながら、これら三つのすべてに通じる、一本の小径があります。その小径の名前が奉仕なのです。そうです。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。」取引をする人たちに対して、最善の奉仕をすれば、精神的な価値だけでなく物質的な利益においても、最高の「利益」を得ることができるのです。商売の上で、顧客に対して優れた奉仕をすることが、永続性を保ち、従って利益を累進的に与えてくれる顧客を確保するための唯一の方法なのです。それはまた、尊敬を確かなものにし、「安眠」を可能にする気休めを確保する唯一の方法でもあります。

人生は海のようなものです。ギブ・アンド・テークの絶え間ない潮の満ち干が、物事を解決します。「与えること」が奉仕であり、「受け取ること」が利益または報酬です。しかし、種を播く時期が、収穫に先行するのと同様に、与えることが、受け取ることには先行しなければなりません。

利益を得る科学は、奉仕を与える科学です。

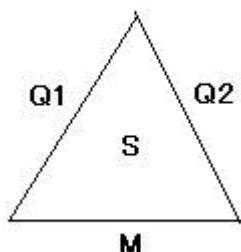
今日、全世界にわたって広範囲に拡がっている経済的、社会的な混乱の原因は、人類の大部分が、人間関係の基本的な法則を破ろうとしているからです。私たちは人類として、与えるのではなく、得ようとしています。それは結局、人類すべてを破滅させるか、少なくとも文明を破滅させて、精神的な暗黒時代に逆戻りさせること無しには済まないのです。今こそ、方向転換する絶好の時期です。

しかし、奉仕、すなわち「利益」の原因とは何でしょうか？ 自然の要素は何でしょうか？ 人間関係に効果をもたらす、魅力的な一般的原则を、どのようにして作ったらよいのでしょうか？ 商売に魅力を持たせ、業界全体として、継続的に顧客に利益を保障するよ

うな奉仕をするために必要なのは何でしょうか？ 従業員が、より多くの賃金を得、「引きつけられる」または「魅力ある」ような、希望する昇進をするためには、どのような内容の奉仕をしたらいいのでしょうか？ 雇用主が、正当な従業員に魅力を与え、永続的に奉仕をしようという気を起こさせ、労働者の交代といった経費を減らすには、どうしたらいいのでしょうか？

ここで、私たちは、人生の計算式としての三角形 G3 について考えてみたいと思います。

よい奉仕の自然的要素



この「G3」の図は、人間が得るために与えなければならない贈り物を図式化したものです。

この三角形の左側の「Q1」という記号に注目してください。これは正しい質という抽象的な要素を表しています。もし「正しい質」という要素が欠けていれば、商品でも人間の労力でも、取引をするお互いの心

の中に信頼と満足という結果を引き起こすはずはありません。

炭素が砂糖に必要な不可欠な要素であるように、正しい質は、満足すべき奉仕に必要な不可欠な要素なのです。砂糖という化合物は、正しい割合の「炭素」がなければ存在しないように、満足すべき奉仕は、商品と人間の労力の双方の正しい質がなければ、存在しないのです。

奉仕の三角形の右側には「Q2」という記号がかかれており、これは「正しい量」を意味する記号です。砂糖という化合物は、「水素」という天然要素がなければ存在しません。その結果として、砂糖は、「炭素」と同様に正しい割合の「水素」も必要なのです。

地球上の誰であろうとも、自然界におけるこの簡単な事実を変えることはできません。同じように、満足すべき奉仕は、正しい質だけでなく、正しい量という要素なしでは存在しないのです。

もしも、世界中のすべての従業員がこの科学的事実を理解することができれば、どんなに幸せなことでしょうか。従業員がこのことを知れば、もっと多くのお金を稼ぐために、腰が曲がったり、視力を失うほど疲れ果てることも、意識的に見掛け倒しでいい加減な仕事をするということもないのです。従業員がなすべきことは、自分の仕事の質だけではなく、その量も増やすように実行することであり、これらの要素の両方が、信頼と満足を生み、人間関係の基礎となることを十分理解することです。

従業員は、正しい質と正しい量という両方の要素が、満足する奉仕という砂糖を作るために必要不可欠な要素であることを理解し、その両方の要素がより高い報酬を引き出す法的な根拠として必要不可欠な要素であることを理解するのです。

雇用主がこの単純な事実を理解すれば、従業員を食い物にするような方法は取りません。雇用主は、単に経済的な義務を果たすだけではなく、すべての道徳的な義務を果たし、その上、健全な経営の範囲内で、従業員に何が出来るかを計算し始めるのです。雇用主はまた、顧客に義務を果たし更に公正な利益を得るためにはどのようにすべきかという計算をもするのです。この単純な事実がはっきり判れば、不当暴利行為は止みます。不当暴利行為は割に合わないことがはっきり判るからです。

不当暴利行為は財政的醜態状態、すなわち経済的な酔っ払いのようなものです。事業を発展させることも、長続きする顧客を得ることも、永続的な顧客の愛顧を確保することもできません。結果的に、人間関係の基本である信頼と、信頼の根底にある満足の双方を壊すのです。それは道徳的に不健全であり、道徳的に不健全なことは、経済的にも不健全なことなのです。

正しい「質」に正しい「量」を加えることは、信頼と満足を築きあげる奉仕をするための絶好の出発点であり、顧客の愛顧を受けるだけではなく、継続させるのです。最善を尽くすという目標に向かって、かなりの道を進みますが、それでは十分ではありません。

満足する奉仕という砂糖の化合物を作るためには、もう一つの要素を付け加えるという、更なる一段階を踏まなければなりません。

この第三の要素が、この図の三角形の底辺に記載されている「M」

です。「M」という文字はモード(状態)を表します。私はこれを「管理のモード」という意味で使っています。

記帳作業で一日中よく働き、その上全くエラーのない会計係が、夜には飲んだくれたり、嘘をついたり、不真面目だというのがその一例で、職業上の専門技術における「質と量」は問題ないとしても、正しい「モード」とは言えないのです。

砂糖という化合物を作るためには、「水素」と「炭素」だけではなく「酸素」も必要なのと同じように、満足と継続的な信頼をもたらす奉仕を行い、人間関係に魅力的に機能する原則を作るためには、正しい「質」と正しい「量」だけではなく、正しい「モード」も必要なのです。あらゆる種類や性質の物質的な品物に、これが当てはまるのです。

食料品の「品」が正しく、値付けとしての「量」が正しくても、事業を管理する「モード」が悪ければ、その食料品店の経営者はその事業において人の心をひきつけることができません。「質」と「量」が完璧であっても、配達の遅れ、電話をする女の子の生意気さ、帳簿の不備といった数々の破壊的な事柄が、信頼と満足をぶち壊す傾向を持った「モード」の要素になるのです。しかし、この三つの要素が備わっていれば、人の心をひきつける原則が働きます。

機が熟したときに、林檎が地面に落ちるように、事業や人生におけるすべての善良なものは、「質・量・モード」を忠実に守っている人や組織にひきつけられるのです。

私たちと類似した分野に従事しており、商品の量や質が私たちと互角である他の業者とは、事業の管理である「モード」の要素で合法的に競争する余地があることを、ロータリアンとして心に留めておきましょう。これは純然とした人間の方程式の問題なのです。ロータリー哲学の実践を行っているのなら、金銭や工場の設備や製品は結果であり、マン・パワーこそが原因であることを忘れてはなりません。

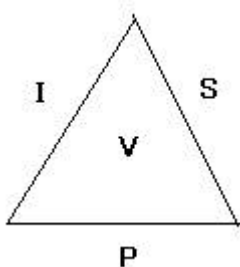
東洋の賢者が「目的の結果がはっきり決まっている場合は、結果に到る手段のほうが、結果そのものよりも重要である。」と言ったのは当を得ています。

目的の結果がより良い生産、より良い設備、より良い販売、より大きな利益だと考える雇用主は、その結果に到る方法を見つけなければなりません。雇用主が自らの可能性の限界を実現しようと思うならば、マン・パワーを作り出すべきであり、作り出さなければなりません。しかし、奉仕の原因とは何でしょうか。今私達は、その要素を見つけはしたものの、その要素の背後にある原因を、慎重に考えたことはないのです。

ここで、私達は「提供者」を意味する三角形「G-2」に達するのです。私たちが今終えたばかりの「G-3」は、得るためには与えなければならぬ贈り物を表したのですが、贈り物を与えるためには、「提供者」が必要です。それがあなたであり、私自身なのです。たとえそれが誰でもあろうとも、私たちの仲間の一部です。たとえその事業が何であらうとも、事業を営んでいる会社です。市民が関連性を持った国家や他の国家です。

この「提供者」すなわち「自分自身」という要素は、次に考える奉仕の数学、三角形「G-2」によって表されます。

自分自身、提供者、マンパワーの要素



マンパワー奉仕を提供することは、報酬を受けるに値する原因ですが、マンパワーこそが奉仕を提供するバックボーンとなる原因です。人生とは、原因と結果の繰り返しに過ぎません。ある原因がある結果を生み、今度は逆に、その結果が原因を生むのです。左の図は、自然的要素としてマンパワーを分析したものです。三角形の左側の

「I」は知性、人間の知的能力を表します。これは考えたり、覚えたり、想像する能力です。人間が偉大なる奉仕の提供者となるべきならば、そのことを自覚しなければなりません。奉仕は人間関係の一つの基本的な法則ですが、奉仕の原則に関連する四つの初歩的な法則があります。この四つの要素がすべての人間関係に関っていると

いう事実は、これまた当然のことです。この四つの要素は以下の通りです。

1. 当事者本人
2. 当事者の相手
3. 当事者間で話し合われた事柄や内容
4. 当事者が合意した心の一致

奉仕の「質・量・モード」を最大限に実践するためには、意識するかしないかに関らず、当事者本人である自分自身が、自らの生活を、初歩的な法則の基本となる理由、すなわち奉仕の原則に関連する四つの初歩的な法則と調和させなければなりません。これらの法則は、四つの言葉によって説明することができます。

1. あなたの「自分自身」をよく知り、あなたのマンパワーをどのようにして作り上げ、発展させるかを考えてください。
2. もう一方の当事者の人間性を知り、その人間という化学物質を作り上げ、処理する方法を理解してください。
3. あなたの事業を理解してください。
4. あなた自身、もう一方の当事者、あなたの事業を理解し、結果的にあなたの仲間と合意に達するようにしてください。

これはすべて、効果的なマンパワーの要素として「理解」を深め、「知的能力」の必要性を強調するものです。

三角形右側の「S」は、精神的な能力を表します。精神的という言葉は、「善」「真」「美」に魅せられた状態にある、マンパワーの側面のことを言っているのです。商品が「良く」、販売員が「正直で」、すべての品物が「美しく」芸術的に並べられている商店は、買う気を起させます。商品が見掛け倒しで、販売員が嘘をいい、広告は虚偽であり、店が不潔で汚れ、醜いときには、買う気は起こりません。

人間性の精神的な側面を開発することは、極めて実用的なことです。言い換えれば、マンパワーの精神的な側面を開発すれば、物質的な面においてすら、恩恵を受けるのです。物質的な利益を受ける

ために狂奔する人は、このことに気付いていないのです。

昔は、体力が権力と所有権と生存の基準でした。次いで権力と所有権と生存のために、頭を使う時代になりました。最も奉仕をした者が生き残れる時代においては、精神的な能力が、効果的なマンパワーの決定的な要素なのです。現実には、正しさは力における最も重要な自然な要素として認識されるのです。

三角形の「G-2」底辺には「P」の文字があります。これはマンパワーにおける「肉体的」な要素を表します。肉体は知的で精神的な力を表現する手段です。肉体は知的、精神的実態、自己、真の人間が住む家です。健全な心には、健全な肉体が必要なのです。

質、量、モードを正しくしようと思うなら、三つの要素すべてが適切でなければなりません。「健康」が奉仕の原因となるのはこのためです。

三角形「G-2」の中心にある「V」は意志の力の要素を表します。意志の力は、知的な力、精神的な力、身体的な力で言い表され、ダイナミックなものです。

意志の力は、頭脳や心や手のような静的な力ですが、意思という工場を経て、量、質、モードという機能を持った言動に変化するのです。

いかなる個人の量、質、モードも、その人が持っている知的、精神的、肉体的な力よりも、すばらしいはずがありません。従って、ロータリー哲学、すなわち奉仕哲学は、自己研鑽の重要性を明確に示しているのです。人間形成の価値は、マンパワーと奉仕、および奉仕と報酬または利益に関する自然的関係に、大きな影響を与えるのです。

奉仕哲学は、自然的な能力に関して、すべての人間が平等であると主張しているわけではありません。しかし、個人が本来または潜在的に持っている能力を開発するために、行動に移す努力よりも、個人が本来または潜在的に持っている能力の違いの方がずっと少ないと主張しているのです。悲しいほど多くの人々に欠けている奉仕を実践したいという気持ちと、高度な奉仕を実践する能力との間には大きな違いがあります。この両者を共に開発する必要があります。この両者は、価値ある報酬の原因となる奉仕には、共に不可欠なの

です。

いかなる能力や技術や資質や力の成長や発展の自然の法則も、正しい育成と正しい使い方と活用如何にかかっています。正しい使い方や活用の原理は、正しい育成の原理と同様に必要なものであり、これは肉体的なものと同様に、知的、精神的、意識的な資質に当てはまるのです。私たちは誰でも、もし、肉体的な力を強くしようと思えば、人間の肉体的な組織を正しく育成し、正しく使わなければならないことを知っています。同じ法則は、マンパワーの知的、精神的、意識的要素にも適用されるのです。手や脳を使って働くこと、労働をすること、すなわち奉仕の実践を義務付けられることは、呪いではなくて、二つの偉大なる自然の祝福の一つであることという事実は明らかです。

人生そのものは、存在と生成という精神的、知的な過程にあり、「行動を起すこと」すなわち奉仕の実践を必要とします。

私たちは「存在」が「行動を起すこと」に先行する、すなわち、エゴイズムが利他主義に先行するという誤った信念の下で働いてきました。従って、私たちの教育制度の主な努力目標は、彼がこのようにして知識を得たのだから、次は別な人もその通りするという、個人に知識を伝えることでした。人が存在することができる、つまり奉仕をすることができる前に、「知る」だけではなく、「行動」しなければならないという事実は、いつの世でも当てはまるのです。実は、人間は、生き残るために奉仕するという、重複した必要性の下で働いているのです。

1. 人間は、強い力を発揮するためには、自分の能力や力を鍛えなければなりません
2. 人間は、人工的に生産しなければ、飢え死にしなければなりません。

下等動物の多くは、食物を集めて、保存しますが、生産することはできません。もし、自然の供給が途絶えれば、死にますが、人間はそうではありません。自然の供給が十分でない場合は、生産しま

す。利他主義(他人への奉仕)が、エゴイズムに先行すること、すなわち、「自己」に先立って「奉仕」があることは、単に可能なだけではなく、極めて実用的であり、必要性の高いことです。極めて実用的な「超我の奉仕—最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というモットーで言い表されるような、ロータリー哲学を作り出したのです。

前述の、人間工学の理論と技術書「Manhood of Humanity」の作者は、著名な数学者であり技術者なので、実業家は彼の言っていることを真剣に考えるべきでしょう。

ある人にとっては、いくつかの部分で彼の結論と異なるかも知れませんが、人間性の本質と可能性に関する科学に対する貢献に関する、彼の偉大なる成果を理解しない人はいません。

過去において多くの作家が、人間を高等生物ではあるが、やはり動物だと分類しました。この作品の著者は、この主張に対して、最も効果的に、次のように反論しています。

「さて、人間について、どのように言ったらいいのでしょうか。人間の定義とは何でしょうか。他の動物と同じように、人間には空間を生活の場にする能力がありますが、その能力に加えて、人間は過去の作業や経験をまとめ、要約し、身につけるといふ恐るべき能力を持っているのです。これは、過去の作業や経験を、現在、開発すべき知的、精神的な資本として活用する能力を持っていることを意味します。これは、失敗や成功の試行錯誤を繰り返しながら、過去の世代における、すべての貴重な生活の業績として、蓄積された力を増やす道具として使用する能力であることを意味します。これは、先祖から受け継いだ知恵を常に増やししながら、自らの生活を管理していく、人間の能力を意味します。これは、過去の時代の継承者であると同時に、後世への後継者である人間の能力を意味します。人間とは、過去の生活を現在に、現在の生活を未来に伝える、すばらしい媒体なので、私は、数学や工学の一般的な言い方で、人類とは、人生という時空の場で生活している種族だと定義します。」

倫理学では「利己は利他に優先する」という事実を認識しなければならぬと説いた、ハーバート・スペンサーの文献について、この作者は、次のように書いています。

「動物には、これが当てはまります。動物は食物を人工的に生産する能力がないので、自然の供給が不十分だと、食物の不足によって死に絶えます。しかし、人間界では、そうではありません。なぜでしょうか。時空の場で生活する能力を持っている人間は、すべての創造物の中で最高のものなので、人間の数は自然の供給が不足しても影響を受けず、人間の技術的な生産性だけによって支配されるのであり、これが、時空の場で生活する能力の具体例です。

人間が持っている本質的な性格として、人間は両親や社会の人たちと共に生活していこうと思えば、まず行動しなければならず、これは動物には当てはまりません。

この単純な真実を理解できないのは、私たちの倫理および経済制度が悪いのか、欠陥があるのが、大きな理由です。事実、もし、人間が動物とまったく同一なものだと考えて生活すれば、時空の場における生産、すなわち人工の生産はなくなり、人類の90パーセントは飢餓によって死ぬでしょう。人間は動物ではなく、時空の場で生活する者です。単なる食、住の発見者ではなく、食と住の創造者だからこそ、このように多数の人間が生活することができるのです。

例え、眼が見えなくとも、この高い次元数の効果を理解しなければなりません。そして、この効果は、今度は別な効果となって、別な物を生み出すという具合に、無限に続いていくのです。私たちは物を生産するので、生活することができます。なぜならば、私たちはただ単に、空間を場として行動しているのではなく、時空を場として行動しているからです。すなわち、人間は動物と同じ種類ではないのです。

人間性と人間の行動についての私の考え方に、少しばかりまともな理屈を当てはめれば、非常に簡単に説明がつかます。

人間の倫理が人間の尺度にあてはまるものならば、倫理の前提を変えなければなりません。人類が生きるためには、まず行動しなければならぬからです。倫理の法則、正しく生きるための法則は自

然の法則であり、人間に特有な、時空を場とする能力と時空を場とする行動に源を発し、それを是認する法則なのです。人間の素晴らしさは、時空を場とする素晴らしさであり、価値も、時空の場の基準で計られ、評価されなければなりません。

人類が、生きるためには創造的に生産しなければなりません。だから、応用科学や技術の指導を受けなければなりません。倫理学、法律学、心理学、経済学、社会学、政治学、行政学等の社会科学と呼ばれるものは、中世の形而上学から開放されなければなりません。科学的なものでなければなりませんし、技術的なものでなければなりません。そしてこれらの社会科学は、動物ではなく、人間の次元に適応した機能を持ち進歩しなければならないのです。」

上記の説明の中で、ロータリー哲学の唯一の相違点は、「創造する」「創造主」という言葉の使い方です。人間は製作者であって、物やエネルギーの創造主ではありません。創造された原料の合成物として、人間は意識的に技術的に物を作ります。このようにして、人間は、主の下僕の間になることができたのです。奉仕との関係における「自我」の考え方から導き出される、現実の結論と教訓とは何でしょうか。極めて現実的な結論は、次の通りです。

世界は、その全体の歴史の中で、最大の破壊の時代を過ごしつつあります。現在、世界は、生産性を集約する時期の必要性に直面しています。もし、その時期が到来せず、破壊の時期である世界大戦が再び始まれば、ヨーロッパや多分全世界は灰塵に帰す可能性に直面します。再び世界大戦を起してはなりません。私たちが戦争を破壊するのか、戦争が私たちを破壊するかの何れかなのです。

それはさて置いても、私たちは、生産するか、飢え死にするかの何れかです。人間には、選択の自由があります、そして、私たち、世界の人々は、何れかの道を選ぶ力を持っています。良識の示すところに従えば、建設的で生産性の高い道を選ぶはずで。

ロータリー哲学の予測によれば、世界は、歴史上、最も長い生産期に入ろうとしています。

この予測は、生産と分配を通じて世界に奉仕することが、すべて

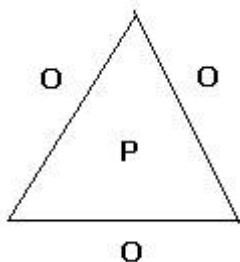
の利益を保存する最善の道であるという事実を認識することです。

1. 自然的義務と責任の履行を通じた、従業員に対する雇用主の奉仕と、従業員に対する責任。経済的義務だけではなく、道徳的義務や教育的義務の履行。
2. 仕事の正しい質と仕事の正しい量、家庭や事業上や市民としての行動の正しいモードを通じた、雇用主に対する従業員の奉仕。
3. 雇用主と従業員の合同チームから、商工業関係者や一般購買者等の第三者に対する奉仕

これが、すべての人たちに対する平和と力と豊かさへの道なので
す。奉仕の実践のバックボーンにある原因として、私たちのマンパ
ワーを熟慮した結果得られるさらに重要な結論は、私たちの学校制
度を改善することによってもたらされる、今の世代の男女や、来る
べき世代の少年と少女に奉仕する機会だということです。人間が活
動する上での自然の法則を、子供たちが大人になる前に、何らかの
方法で、どうかして、人生の学校において教えなければなりません。
私たちの学校は、マンパワーのあらゆる自然的要素の開発を目指して、
人間という植物を科学的に栽培しなければなりません。しかし、マン
パワーの根源となる、マンパワーの原因とは何でしょうか。人間の
力を含む、人間のニーズの供給源は何でしょうか。

ここで、私たちは三角形「G-1」を考えなければなりません。

原因 - 根源



すべてのものは、創造主によって作られ、
すべてのものは、提供者によって配られます。

三角形 G1 は、世界の様々な宗教によって、
ほとんど普遍的に述べられている、創造主
である全知 Omniscience、全能
Omnipotence、普遍的存在 Omnipresence の三位一体を示すものです。

ロータリー哲学は宗教ではありません。プロテスタント、カトリック教徒、ユダヤ教徒、異教徒、儒教や道教信奉者、ヒンズー教徒、精霊信奉者、仏教徒などの何れの時代の聖者や予言者の仲間たちも、ロータリアンにとっては、同じロータリアンなのです。

ロータリアンは、信仰に関しては個人の好みに従うのは当然としても、すべての人たちを兄弟として扱うのです。

ロータリーの会員資格では、宗教的専門職務や信条の如何は問われません。従って、ロータリー哲学の討論に当たって、この点を誤解してはなりません。原因によって結果が得られる科学として、その理論的な結論が導き出される奉仕哲学は、ウィリアム・ハミルトン卿がいみじくも述べたように、「神と人間とそれらを含んだ原因の科学」であるという結論を否定することはできません。

原因と結果の法則は、宇宙の摂理の存在を否定することはできないのです。すべての物質やエネルギーはその原因となる根源を持っていることは、真理であって、否定しようと思っても、否定することはできません。それを神と呼んでください。それを無限の心と呼んでください。それを自然と呼んでください。ハーバート・スペンサーと共に、「絶対的なもの」と呼んでください。人間がどう呼んだとしても、その存在を否定することはできないのです。

人間の心は有限だから、無限な心を捉えることは出来ません。だから、人間は神を知ることができないと言うのは、尤もなことです。

さて、エディソンは、電気が何であるかをまだ知らない、と言っています。しかし、電気の存在については、その現象や効果によって十分知っており、それと同じように、私たちは皆、宗教用語で神と呼ばれるものの存在を知っているのです。私たちはその多面的な現象、すなわち無限の英知や力や存在を確信することを形に表すことによって、神を知っているのです。

原因は、その原因と関係のない結果を引き起こすことはありません。そして、知性の程度に応じた本心が自然に現れるのです。

材料工学では材料となる物質の存在や、力やエネルギーの存在が重要であり、存在は創造を意味し、創造は創造主を必要とします。

もし、「神」という言葉があまりにもあいまいで漠然としており、知的理解や知的現実として容認し難いと思うのなら、「神の摂理」という言葉に置き換えて見ましょう。それでもまだ、あいまいならば、言葉の間にハイフンを入れて、「Provid-Ence」としてみましよう。

人間の知性は、すべての物は、「提供者」から与えられたという事実を理解することができるでしょう。純粹論理は、人間が物を持ちたり得ることができるのは、とどのつまり神の為せる業とか提供者がいるおかげであるという基本的事実を認めることを命じています。

人間はその有限な力を、神のなせる業によって与えられているのです。私たちが認識しているあなたや私の知性、私たちが感じるあなたや私の感情に訴える力、私たちの考え方や感じ方を言葉や行動で表す、あなたや私の肉体、私たちが決断し行動するあなたや私の意志、私たちが「私たちのもの」と呼ぶすべての力には、その根源があるのです。

事実上、人間はその力の伝達者に過ぎませんが、人間の活動の軽率さから、この事実を考えようとしなない傾向があります。

すでに述べたように、人間は一片の原料も、僅かなエネルギーも創りだすことができないという既定事実を真剣に考えてみましたか。

人間は、「時」という要素を支配し、それを「結び付け」て、利用する力を持っています。人間は創造物を有用な形に組み合わせる驚くべき存在なのですが、人間の生産力をすべて発揮したとしても、しよせん人間は、神が創造した物を組み合わせる存在に過ぎません。

人間は羊を飼って羊毛を刈り、自分自身や仲間のために、羊毛を織って衣服を作ります。しかし、羊も羊毛もなかったらどうしたらよいのでしょうか。人間は羊や羊毛を創ることはできないのです。

人間は、綿の種を植えて、それを育て、摘み取り、布を織り、その布で衣服やその他の有用なものを作りますが、もし綿の種や、土地や太陽の光や雨がなければどうしたらよいのでしょうか。

人間は、鉱石を採り、木を切り、それをいろいろな形に組み合わせ、家を作りますが、もし木や鉱石がなければどうしたらよいのでしょうか。

人間は、土地を耕し、食物を収穫し、食べ物を調理しますが、人

人間が食べ物を創り出すことはできません。人間が行うことは、神が提供してくれたものを、耕したり準備したりするに過ぎないのです。私たちが呼吸する空気ですら、その根源となるのは「神の摂理」であり、空気なしには肉体は3分とは生きられないのです。

純粋な理性は、そのような提供者に感謝の念を表すように命じているのです。正常な男女は、意識的に感謝することを忘れはしませんが、しばしばうっかり忘れるものです。ロータリアンとしての、このことを真剣に考えると共に、ロータリーの原点とも言える友情や他人への奉仕との関係についても、思いをはせようではありませんか。

兄弟愛、友愛、親睦、あなたがどのように呼んでも結構です。神の摂理は羊や、綿や、木や、鉱石や、土や、日光や、雨や、食物や空気を与えただけではなく、すべてのものを与えたのであり、その中には、人間もあなたも私も含まれているのです。そうです。私が神を認識するか否かに関らず、神は私の父なのです。子供が父親との関係を否定し続けても、その根源は父親であり、従ってあなたと私は兄弟なのです。人間の兄弟愛は科学的な事実であり、決して玉虫色に変化する夢ではないのです。

神や神の摂理が存在するという事実と、ロータリーの原点とも言える奉仕の原則との関係について、その論理的な結論に達したと考えるべきではないでしょうか。

私たちはすべての人間関係の基本的な法則である奉仕の原則の第一人者であり、結局、その原則は意識的に作られた愛の法則なのです。

他人に対する奉仕は、愛のテストであり、何物かに対して何がしかの愛がなければ、奉仕は存在しないのです。

しかし、奉仕においてしばしば現れる人間の愛は、顧客に対する愛ではなくて、顧客との取引に対する愛です。人間としての顧客に、本当の関心があるのではなく、単に顧客と取引をして、それを継続することに、関心を持っているのであり、人間が愛しているのは、明らかに取引と継続なのです。従って、人間は、「質、量、モード」の奉仕をするように努力しなければならないのです。

このことだけが、この問題における唯一の実際的で、正直で、真実性のある見解だと言えるのです。しかし、奉仕の種が、人間性に対する本当の関心と愛の土壤に播かれずに、顧客との取引に関する関心と愛の土壤に播かれれば、何人であろうと、最善の奉仕の収穫をあげることができないのは、言うまでもありません。

農業では、ある特定の種子には、ある特定の土壤が必要であることが判っています。ある土壤でアルファルファを作れば、種子を無駄にし、労力も無駄にします。

これはまさしく、満足感、信頼感、魅力を与えて、有益な取引関係を継続させるという奉仕の最善の収穫をあげることと同じなのです。奉仕の種子は、神の愛、すなわち神の摂理に対する敬愛という土壤の中で、最も良く育つのです。兄弟愛や顧客を含んだ人類愛という純粋な感情というのが、論理的な結論です。従って、顧客に対する奉仕は純粋なものであり、浅薄なものでも偽善的なものでもありません。

それを欠いた奉仕は、99%不純なものです。

私たちは物質的な時代を通り過ぎようとしています。低いレベルの世界や拝金思想の下では、人間は神に背を向ける傾向があります。

低いレベルの世界を見下ろせば、鉱山を採掘し、森林を征服し、植物を栽培し、科学的に家畜を育てることに専念するあまり、最初に捜し求めるべきであった、神の世界や神の正義から顔を背けてきたのです。従って、他の事柄は、すべて付け加えに過ぎません。

正しい方向に顔を向ける時が来ました。私たちの祖先の古き良き美德に戻る潮時です。それらの美德は古臭いものだと言われていますが、基本的で普遍的な法則と調和しているという簡単な理由から、決して時代遅れのものではありません。

私たちは、今、哲学という言葉の正確な意味を考えながら、奉仕哲学を分析しました。哲学そのものが科学であり、基本的な事柄をとりあげて、推論を正しい目的に適応させて、結果の背後にある原因を明らかにすることが判りました。奉仕哲学が真の哲学の、これらの一般基準に当てはまることが判ったのです。

私たちには、ロータリーの原点とも言える奉仕哲学の普遍的理解

と適用から、どのような結果が得られるかについて、論理的に予想するという作業が残されています。なぜ、いつ、そして最後に最も重要なことは、どのような方法で、ロータリーがこれを手助けできるかということです。

* * * * *

何ですか

奉仕の原則やそれに関連すると自然の法則を、普遍的に理解することの結果は何でしょうか。その答えは、人間界に浸透している普遍的な正義の支配を通じた、普遍的な平和と豊かさです。物質主義や利己主義の悲観論者は、「理想主義」と叫ぶかもしれませんが、それでも結構です。この予言は、その性質上、実行不可能な理想主義だと広言するのなら、それでも結構です。実行できないと言う人がいれば、利己主義者がたとえ生きながらえたとしても、実行する人たちによって、はじき出されるに違いありません。

国家間の正義、会社や商工業、その他の機関間の正義、従業員から雇用主への正義、雇用主から従業員への正義、これらすべての問題であり、これが平和と豊かさにつながる唯一の道なのです。

なぜですか

人間は、生来、戦う動物であり、人間の性質は本質的に利己的なので、すべてこのようなことは解決できるはずはないと言う人がいます。しかし、それは間違っています。人間は動物の種類ではなく、人類なのです。利己主義は、自分の利益を、生き延びたいという願望、すなわち自己保存の本能と間違えたものなのです。

人間は、子供から大人になり、成長してくると、適者生存の法則が、最も多く奉仕した者が生き残れる法則であるという事実を理解することができるのです。生き残りたいと思うのなら、もはや戦

いは望まず、奉仕したくなるのです。

ロータリーが根底としてきた「原則」を理解するという光のラジウムは、利己主義という癌の治療法なのです。利己主義は、人間の自然的な特徴ではなく、病気が、安らぎを欠いた状態です。治すことができますし、治すべきです。

世界大戦は、人間の幼年期の歴史を閉じました。今、私たちは、成人期の歴史を開こうとしています。

戦記念日の夜、アメリカ中が興奮と喜びで気も狂わんばかりの歓声に、ほとんど耳の聞こえない状態で家に帰りました。しかし、次に書くような、真実の声が聞こえないほど、難聴になっていたわけではありません。

「今夜、軍神の手が止まりました。今朝臨戦態勢で整列していた軍隊も、今夜は休息しています。ハレルヤ。今宵、全世界の人たちは、手と頭のカコソガ力であると言ったのが間違いであることを知ります。今宵、私たちは皆、神の万物に対する永遠不変の計画は、正義の自然的要素なしには、永遠の力は得られないことを認識すべきです。」

国も、会社も、個人も、そのような方法によって、成功を勝ち取ることはできません。宗教的な力も精神的な力も肉体的な力も、それだけでは力になり得ないのです。この三つの力すべてが必要なのです。酸素が水の自然的要素であるのと同様に、正義は恒久的な力の要素です。従って、人間界が奉仕の原則によって管理される真の理由は、次のようなものです。

1. 奉仕の原則に従うべきであるということは正しいことです。
2. 奉仕の原則は、健全な経済の法則です。
3. 奉仕の原則は、人類が今や到達しようとしている、生き抜くための法則であり、人間が生き抜くためには奉仕をしなければなりません。

何時ですか

奉仕の原則が、普遍的な慣行となるのは何時のことでしょうか。それは、奉仕の原則が、普遍的に理解されるときです。多くの少年や少女や男女が九九を知っているように、奉仕の原則を理解するときに、その普遍的な適用が身近になるのです。それは何時のことでしょうか。それはすべて、世界の実業家如何に懸かっているのです。

禁酒法の問題の長所、短所にかかわらず(この問題は、私個人としても、ロータリーとしても、またスコットランドでも全く問題にならない事柄ですが)、アルコール飲料の製造禁止が道德主義者の仕事として委ねられたときには、さして進展しませんでした。

しかし、事業所が飲酒癖は経済的に不健全であるという結論に達したとき、アルコール飲料の製造禁止は合衆国の理論的な既成事実となり、その販売量は徐々に下がっていきました。

商工業界は、倫理や正義や奉仕の実践は価値があるという事実に気付いたのです。その他の人たちも、徐々にこれに続くに違いありません。

世界中の人々のおよそ 95 パーセントは従業員であり、およそ 5 パーセントが雇用主です。大きな義務と責任、強力な特権が、この 5 パーセントに一気に集中しています。それを知っているか否かに関らず、あらゆる雇用主の重要な義務は教育者としての義務です。雇用主は基本原則と成功を治める人間活動に関する自然の法則、すなわち人生の数学の教師でなければなりません。世界中の雇用主が人間関係の自然の法則を知って、それを教える能力を持ち、それを行えば、成人の普遍的な理解は、急速に進むでしょう。

しかし、奉仕の原則とそれに関連する自然の法則が、公立の学校やその他の教育機関で教えられるまで、この歩みは遅々たるものに違いありません。しかし、その日は必ずやってきます。その日がやってきたら、自然の法則の普遍的な理解とその適用は、たちまち広まることでしょう。

文明は四本の柱に支えられています。進化も同様です。四本の柱とは、家庭と、学校と、教会と、国家です。もし父母がこの原則を

理解してそれを子供たちに教えれば、学校教師がそれを理解してその問題に関する教科書を配って、人生の数学を教えれば、教会がそれを理解して正義の実利的な側面を教えれば、牧師が現世だけではなく、来世の精神的、肉体的価値と精神力の関係を示せば、そして、わが国の政治家がこれを理解して、人間が作った法律を神が作った法律または自然の法則と調和させたなら、自然の法則を普遍的に理解し適用する日が、完全に到来するのです。それは、明日とか、来週とか、来年ではないでしょう。しかし、今数多くの人たちが信じているよりも、はるかに早くやってくるに違いありません。

どんな方法ですか

私たちは、これらすべてのことがやってくるために、どんな手助けをしようとしているのでしょうか。ロータリアンとして、何をしようとしているのでしょうか。私は真面目に、二つの提案をしたいと思います。

最初の提案は次の通りです。ロータリアンの大部分は雇用主です。実際には、全員かも知れません。私たちは、従業員に対するの自然な義務、債務、責任のすべてを実現させることを、本気で試みようではありませんか。

現在、多くの雇用主がそうしています。多くの雇用主はロータリアンですが、ロータリアンでない人もたくさんいます。世界中の雇用主の大部分は、従業員に正しく対処しようと思っています。彼らは労働力を搾取することの愚かさを学びました。彼らは憎しみの地獄、利己主義の破壊性といった教訓を学びました。しかし、先祖が犯した罪は、次の世代の子供たちに引き継がれていくのです。今日の雇用主は過去の雇用主の利己主義に苦しんでいるのです。

一般的に、「資本家」と呼ばれる「管理者」は、今日「労働者」の信頼を受けていません。しかし信頼がなければ、利益を得る関係の基礎がなくなるのです。その基礎を再構築しなければなりません。労働者との関係において、経営者が語り、書き、行動することによって、それは可能ですし、可能にすることができるのです。

「作用があれば反作用がある。」これは物理的な法則であると同時に、精神的な法則です。管理される側に対する管理行動が利己的だから、今日、労働者の利己主義的な行動が、押し寄せる波のようなお返しをしているのです。

「目には目を」私たちは、「播いた種を刈っている」のであり、「上がった分だけ下がる」のです。

しかし、管理者も資本家もこの教訓を学びました。建設的な作用は建設的な反作用を生み出すでしょう。躊躇しないで善行を行い、正しいことは、それをし続けましょう。法則は法則です。そして、奉仕の法則は、魅力ある法則であり、機能するのです。

雇用主は忘恩的な行為が起こっても、自らの経済的、人間的関心、教育的義務のすべてを実現させましょう。雇用主がそうするのは、そうした方が勘定に合うからでも温情主義的な方法だからでもなく、正しい方法だからです。そうすれば、建設的な反作用がすぐ、始まるでしょう。経済的義務に関しては、恐怖とか感情によって、奉仕の価値以上のものを支払うのではなく、その価値に見合う額を支払ってください。なぜならば、そうすることが正しいからです。

現在、労働者は極めて利己的です。しかし、仕事の量を減らして、同時に、多くの賃金を得ようとする個人や個々の組織は、火力を減らして、熱を増加させようとする人に似ています。それは自然の法則に合いませんし、うまく機能することもできません。自然の法則を破ろうとする組織は、個人と同様に、自らを破滅させるのです。一方、私たちは、「無知こそ私たちの唯一の罪。」であることを知るのです。現在、そして過去における労働者と資本家、および資本家と労働者間の罪は、すべて自然の法則に対する無知が原因です。しかし、「労働者」は古い時代ほど無知ではありません。今日では、非常に知的であり、この自然の法則の実態を理解し、時期を逸しないうちに、崇高な奉仕を開始することでしょう。

私たちの従業員が、自らを忘れているという世界的な問題に、そんなに絶望することはないのです。すべてのロータリアンの事業は、それが存在する地域社会における道しるべとして、雇用主から従業員へ、従業員から雇用主へ、また労使双方が一体となって会社から顧客に対する、すべての自然的義務、債務、責任を遂行する光を当

てなければなりません。商工業の顧客こそが、結局のところ、「ビッグ・ボス」なのです。彼らが私たちを拒否すれば、私たちはすべて仕事を失うのです。

次の提案は公共サービスです。

ロータリアンとして、私たちは公共サービスをどのようにしたらいいのでしょうか。既にロータリーは、人づくり、企業づくり、世界づくりの大きな要素となっています。私たちは本当に、偉大な世界の建築者になれるのでしょうか。次のことを覚えておきましょう。

地域社会における各々の企業が正しければ、地域社会の問題はなくなります。各々の地域社会が正しければ、州の問題はなくなります。州が正しければ、国の問題はなくなります。国が正しければ、世界の問題はなくなります。そこで、すべての問題がなくなるのです。しかし、企業が正しくなるための秘訣は、個人が正しくなるようにすることであることを忘れてはなりません。

最終的な分析では、企業づくり、地域社会づくり、州づくり、国づくり、世界づくりの問題点は人づくりにあります。マンパワーを正しく作ってください。そうすれば、残りの問題は、おのずから解決するでしょう。この問題は、二つの事柄によって解決します。

1. 雇用主と従業員間の関係の改善
2. 公立学校やその他の教育機関に対する建設的奉仕

最初の問題に関しては、前述のとおり、家庭から始めましょう。そして、皆が最善を尽くしましょう。それは大きな仕事ですが、善良なロータリアンにとっては、大きすぎる仕事などはありません。

次の問題として、「私たちの学校に対する建設的な奉仕」があります。ここには、奉仕の原則と、これに関連する自然の法則を迅速かつ比較的早い時期に理解することを可能にする唯一の「方法」があるのです。そこには、ロータリアンによる、この時代の青少年、および来るべきすべての世代の青少年に対する、真の奉仕の機会があるのです。私たちは、ちょっと「立ち止まって」、「目を向け、耳を傾けて」、この事実に関して考えて見ましょう。

近い将来の父、母、教師、牧師、雇用主、従業員、議員のすべては、現在、世界中の学校の教室にいるのです。

テネシー州メンフィスのロータリアン、ジョージ・ジェームスは、何れにせよ、私たち年取った仲間は、むしろ絶望的であり、私たちの希望は、世界中の若者に懸かっているのですと、述べています。彼は、奉仕の原則とそれに関連する自然の法則を、世界中の学校の生徒たちに教えることが、今行うことができるすべてのことの中で、最も大切なことだと言っています。ロータリーは、他の類似の会社の協力を得て、この本当に大きい事柄が行われているかどうかを、くまなく調査しようではありませんか。

この国際大会をやったのけるほどの人ならば、何でもできるはずです。それはロータリアンが総力をあげるほど価値のある奉仕です。昼食例会の各クラブが、地方の商工会議所を通じて働きかけ、この事柄について協力します。さらに、実業家は、奉仕の原則とそれに関連する自然の法則が、教科書の形に纏められ、学校で適切に教えられているかどうかを監視することによって、私たちの国の教育制度を改革することができます。このことは、次の世代のために計画を立てている先見者や預言者にとっても、価値ある奉仕となるに違いありません。

すべての国の実業家が結集して、経営学の大学を作り、その主な目的は、人づくりと自然の法則の教育にします。彼らは、先例よりも原則を優先する新しい種類の学校を創ることもできます。

そのような学校は、個人的な利益追求ではなく、慈善的なものでなければなりませんし、宗教的、政治的に中立であり、物質至上主義にならないように慎重な配慮が必要です。

そのような学校は、急速に人間関係学を発展させ、すぐに、他のすべての学校に対する奉仕の、強い味方になるでしょう。

是非、これを行いましょ。

これこそ、行う価値のある他の如何なる活動よりも、価値のある、全世界的な「青少年」活動だと言うべきです。

結論

以上の事実を考案した結果導き出される結論として、私たちは結局楽観的でいいと確信しました。真のロータリアンは、いつも楽観的です。

しかし、責任を回避する時間はありません。皆が、喜んで積極的に、大胆不敵に、この事態に直面し、法則の光が導く場所に赴き、本分を尽くすべき時です。商工業界や政界の大釜の中で起こっている、全世界的な「混乱」は、次の三つを強く示しています。

1. 自然の法則の違反による人種の破滅。
2. エジプトやローマの滅亡に見られるような、精神的な暗黒時代の再現や不況。
3. 新しい、より良い時代への人類の再生。

私は、個人的には、三番目の仮説を信じ、決して悲観論者になるまいと思っています。明日は気分が悪くなることを知っているために、気分がいい時でも、常に気分が悪いと言う老婦人のようには、決して、なりたくありません。明日は悪くなるかもしれないと、信じることはやめましょう。明日はもっと良くなるに違いありません。

私たちは単に岐路に立っているだけで、どの道を選ぶのか少々難しいだけなのです。しかし、私たちは奉仕の道を選ばなければなりませんし、それを確信しています。現在おける問題点の多くは、自然の法則を学ぼうとする者が、自然の法則の違反から生まれる苦しみしか見えないことにあります。遅かれ早かれ、憎悪という地獄の炎に焼かれた人間は、奉仕の法則を学び、人生と奉仕の法則の調和を図るようになるのです。神は、文明の特定の流れの中で、私たちに法則の中の法則を学び、宣言し、それに生命を与えようとしています。

現代の苦しみは大きいのですが、私はその中に、人類誕生の産みの苦しみを感じています。そして、それは、新しく良い流れに向かっての誕生なのです。ちょうど、蝶がサナギから生まれ、厄介な

体で這い回ることから開放されて、空高く舞い上がるように、人類が、利己主義と唯物主義という醜くて、ゆっくり這いまわっているサナギから開放されて、奉仕の原則の理解と適用という輝かしい光の中に姿を現し、私たちが通り過ぎた過去の時代には、夢にも考えなかった、円満で有益な人間関係の世界に舞い上がるのです。このことすべてを実証するために、共に立ち上がりましょう。これを現実のものにしましょう。私たちの生活を、私たちが愛する法則の中の法則とそれに関連する法則を、自然の法則に合致させることによって、そのことをロータリーが証明しようではありませんか。

ロータリーよ、永遠に。そして、それは、間違いありません。

基本的な法則である、神の真実のお陰で、ロータリーは決して干上がることはないのです。

人間の意識の中で、物理的な分野において最強のナイアガラより強い「光」と「力」を持った、最も優れた発電機にならなければなりません。

最後に、全世界のロータリークラブに対して、法則に関するささやかな教訓と人生との関連に関する内容の、私の好きな無韻文の作品を捧げる名誉を与えてください。

ナイアガラ

私はナイアガラの滝を見上げ、その滝音を聞き、激流が流れていくさまを見ました。どこまで流れていくのか聞くと、「どこまでも」という答が返ってきました。

その水が深くじめじめした峡谷を流れ下るのを見ながら、また、果てしなく続く流れ、間断なく早く流れていくのを見ながら、私はとりとめもなく、また、じっくりと考えました。ナイアガラは、騒がしく果てしなく動き、力強く速く流れ、平地では湖となり、ひとたび強風が吹けば、阿修羅のごとく荒れ狂い、また、静かな川となって穏やかに流れ下ります。そして、最後には、すべての水がたどり着く海に流れ込みます。私は、歩き回りながら、これらすべては、その内容が人生に似ているのではないかと考えました。

人生には、すべての事柄が、湖のように静かな時があります。これは、私たちが人間として、神の意思と調和を保っている時です。嵐に見舞われた湖のような、人生の激しく揺れ動く時があります。人間が神が創った愛の法則と衝突している時です。

人生の川が夜も昼もすべてが順調で、何の問題もなく、早く力強く流れる時があります。急流の中に、岩や早瀬が割り込んで、渦を巻き、泡立ち、苦労や困難ですべてがうまくいかなかった時には、人生のナイアガラを乗り切るために、私たちは法や規則を行使しなければならない時もあります。そうしなければ、私たちが見ている水のように、人間は流れ下って、地獄に落ちていくのです。

憎しみという精神的な谷の、悲惨という深くじめじめした峡谷に向かって流れ落ちながら、罪の意識の苦痛から自らじっと耐えている時、または、自らの運命にけじめをつける冷酷な死に直面して、何とか急がなければと七転八倒しながらも、すべてがどうにもならない時があります。人間がこれらの厄介ごとに疲れ果てた時、人間は、神が創った法則であるすべての自然の法則に叛くことを止めようと、無限の創造主、全能の主に誓いを立てるのです。

その誓いが真面目に立てられ、すべての分野で守られれば、人生は再び、今日見たナイアガラの水のような川になります。私は、その平和な川が、流れ下って、轟音をたてて滝となっているのを見た時、また、その水が今までの混乱を全く忘れたかのように、曲がりくねりながら進んでいく様子を見た時、また、巨大な谷間を曲がりくねりながら通ったり、荒々しい岩の浅瀬の真ん中を、何ごともなくひと固まりになって通り抜けるのを見た時、私は心から、全知全能の神に対して感謝の念を捧げるのです。神の鞭は復讐の鞭ではありません。

もしも人間が、愚かにも、神が創った法則に逸脱して、自らの人生の平和な川の流れに滝を作っても、その人がすべきことは、人間としてそれを受け止めるだけでいいのです。神は荒れ狂う奔流を鎮めてくれるのです。もしもあなたが、如何なる時でも如何なる場所でも、神の許しを乞い、神の命令に従って神の愛に値する行動を取るなら、神は、正義の荒々しい岩の壁からあなたを守り、平和な川に戻して、あなたの力を再び蘇らせてくれるでしょう。

皆さん、人生は運ではなく、法則なのです。そして、法則はすべて神が創ったものなのです。正義は力の源です。そして、過ちから脱却するには、そんなに時間はかかりません。もし、あなたの人生が困難に巻き込まれたら、あなたが行った過ちを見つけてください。決して他人のせいにしてはなりません。恐れてはなりません。正直で、忠誠な人間になってください。良心の声があなたにはっきり告げるところに従って、常に忠実で、真実な人間になってください。これこそが、「急流を乗り切る」方法であり、「滝」を作る方法であり、「渦」を鎮める方法なのです。神の法則に留意してください。そうすれば、あなたの人生のすべての流れは、すべての人生が最後に到達しなければならない、海への道に向かって流れていくのです。すべての海の中の海に、誰も見ることの出来ない海に、未来の海に、正義という荒々しい岩の峡谷を通った、あなたの力を修復し、あなたの力を再び蘇らせて、「永遠」という海への道に向かって・・・。

(田中 毅訳)

THE PHILOSOPHY OF ROTARY

Arthur Frederick Sheldon

Mr. Chairman, Ladies, and Fellow-Rotarians:

Several honors have come to me as I have jogged down the road of life. but none which I esteem quite so highly as the fact that this now mighty movement saw fit in its early days to have adopted one of my favorite—I think I may say my favorite—mental child as an aphorism for its motto. That pleasure is very greatly' enhanced, I quite assure you—the pleasure that you did accept that as .your motto—by the more than kindly reception which I have received since my subject has been announced. My subject, as you know from the program, is "The Philosophy of Rotary." I might say that I have already delivered my speech.

I have delivered it in written form to your Committee on Publication. I wrote it coming over on, the boat, and having written it I persuaded the editor of the "Forum" to let me read it to him, and he said when he had heard it, "Why, Sheldon, you have not written a speech; you have written a book." So you will be glad to know that the speech is already delivered.

(Laughter).

But I am going to try and tell you in a heart-to-heart way something about that thesis on the Philosophy of Rotary which probably you will see in written form later, and which I have honestly endeavored to make a basic treatise on the Philosophy of Service for which Rotary stands. The best we can do in a program of this kind, without

infringing on the rights of others, is to deal with some of the fundamentals—touch, as it were, some of the highest points.

Rotarian Sheldon then spoke as indicated In the above introduction, and for some forty-five minutes held the rapt attention of the convention, speaking without notes and giving the essence of the thesis which he referred to In his Introduction. His address was liberally punctuated with applause many times, and at its close an ovation was given which left no room for doubt as to the reception of the message. The audience rose en masse and remained standing and cheering until Mr. Sheldon responded by rising and acknowledging the ovation.

The thesis, in full, is inserted herewith as a matter of record. Near Sissons, northern California, three springs are flowing. Fed by the eternal snows of Mount Shasta, they will never run dry. These three springs unite and form a stream. That